○議長（古川元規）　5番　森　弘秋議員。

○5番（森　弘秋）　私からは、関係人口の増加に係る観光地の再発見とその活用、いかに運用するかについて質問いたします。

ご存じのとおり、舟橋村は面積が一番小さい村として全国に名をとどめております。ただ、県においては唯一の人口増を誇っております。ここまでいいんですが、いま一方、他の活動が少し乏しいんじゃないかと。要するに、誇っておるものがないというふうに感じておりますが、私だけではないと思います。

ところで、舟橋村は関係人口3万人の目標、これは村長が言っておるんですが、達成をめがけておりますが、何となく厳しい状況にあるかなというふうに思われます。

そこで、関係人口をどうすれば村の発展が考えられるか。この件に関しては、少し「関係人口」という言葉をひもときますと、ふるさと納税を通じて地域と継続的につながる人。地域のイベント等、活動を通じて関係を築く人。また、その地域に住んでいなくても、定住を前提にしていなくても、継続的に関わる人と解釈されております。

以前にも質問しましたが、令和6年度から始まったサンフラワープロジェクトに見られますそのヒマワリ畑は、昨年は何か種をまいたらカラスが取っていったとか、鳥が取っていったと聞きましたけども、どこへ行ったんでしょうかね。その後の活動が全く目に入らない。

そこで、2年目の計画として、今言ったように、ヒマワリ畑の拡大、飛び地でもよいではないか。また、そのときに休憩用のベンチを設けてはどうかと。だけども、何ら全く動かないというふうに感じております。

私に言わせれば、計画性がないと。もう少し計画的に、じゃ、こうしましょう、ああしましょうといったものがないんではないかなと。ベンチもないし……。ロゴマークも発表はあったんですかね。これはまた、委員会でも質問しますが。

それから、昨年6月議会では、竹内天神堂古墳を整備し、周辺を観光スポット化して整備する意見はあったんですが、これもどこまでいっておるんですかね。ただ、神社の横を見ますと、県道の反対側ですね、通路は、私が見た限りでは少し整備されたんかなというふうに感じますが、いかがでしょうか。

別の視点から、村ではこんな歴史があります。国重地区に大岩道の道先案内石、まあ小さい石ですが、あります。また、昭和初期には、国重地区は飲料水の質が悪く、俗に言う「赤そぶ」の井戸がほとんどであったと。ある人が、これはあかんということで地

面を深く掘り下げると、俗に言う「青そぶ」が出てきたと。そして、大岩不動さんに参詣する人が、この街道を往復してきたことがあったんですが、この井戸水を飲んで一服したそうです。

また、余談ですが、一時期、桝田酒造が酒造りにこの水を使っていたという話もあるそうです。こういったことが結構あるんですね、舟橋村にも。

また、こんな伝説もあります。村の東の外れ、舟橋交差点の近くに釈迦の石の造形がありますが、立派な木造のお堂の中に祭られております。

ここでは何か昔、今は聞きませんけど、カワウソという動物に住民がだまされたという伝説があります。白岩川に架かる交益橋の近くにカワウソがすみ着いて、そのカワウソが娘姿に化けて行商人をだましたそうです。

また仏生寺、大願寺に千手観音が安置されていました。さらに、今言ったように、竹内神明社の天神堂古墳があります。今は諸事情からあの森が切られましたけど、私が踏切を渡るとき、上を見ますと、あの大きな森が見えなくなってちょっと寂しい気がしておりますが。さらに、ばんどり騒動もあります。

このように、歴史を見てみると、名所旧跡をたどり、村の観光コースを考えられないか。いろんな歴史、名所があります。いかがですかね。

また、最近の出来事としては、これは歴史と言ってはならないかもしれませんが、小学生が、トミヨ、サクラマスの看板に見られるように、稚魚の放流。また、来年度ですね、８年度に整備が予定されるオレンジ公園内の夜間照明、テニスコートの活用等々。新聞によりますと、先日も小学校４年生、６年生がサケ、マスの稚魚を放流しておりました。

そこで、サンフラワープロジェクトであるヒマワリ畑を拠点として、村の観光地を周遊して遊べるコースの設定ですね。例えば、名所等を周遊するＡコース、遊びを主とするＢコース。

当然にして、我が村は小さいですから、他市町の観光地も視野に入れなければならない。我が村だけでは限界があります。しかし、言ってみれば、オレンジパーク、公園で１０分なり２０分休憩するコースも考えられます。

とにかく、村が小さい、観光地は少ないかもしれないけども、何とか発掘して、要するに、発想を変える。最近の議会でも言っておりますが、発想の転換です。新名所、隠れている名所旧跡はないか、発掘ですね。

交流人口から関係人口に、次には定住者となり、人口増に。サンフラワープロジェクトの今後の方向はどうなるんですかね。新名所、隠れている名所名跡はないか。

総務課長は富山から来ておられますが、外から見て、舟橋村の観光をどうすればよいか。どのように工夫、発展させるか。

例えば、施設の回遊性を図るため、電光掲示板の設置による宣伝、自動運転バスの実証実験も始まると思います。

要するに、外から見て、舟橋村の観光をどうすればよいか。どのように工夫、発展させるか。

つい先日、立山町では、立山町観光協会による称名滝観光タクシーツアーを始めるそうですと報道されていました。

ちょっと言葉は大げさかもしれませんが、舟橋村の観光戦略会議というものを開いて、夢のような遠大なる計画を立て、一歩一歩進めていくことも考えられます。

いやいや、そうでないよと。もっと別の方法があるよとあれば、総務課長の考えはいかに。

終わります。

○議長（古川元規）　山﨑総務課長。

○総務課長（山﨑貴史）　5番森議員の、関係人口の増加に係る観光地の再発見とその活用に関する質問についてお答えいたします。

舟橋村は日本一面積の小さい自治体ですが、ジオパーク指定地である竹内天神堂古墳や本尊が県指定有形文化財に指定されている無量寺など、歴史ある名所や文化財を有しております。また、新たな観光スポットづくりのため、令和6年度からサンフラワープロジェクトに取り組んでいます。

村外の者から見た視点としまして、舟橋村の観光施策を整理するに当たって、3つポイントがあると考えております。

まずは、議員からご指摘のあった舟橋村の釈迦石仏に関して、村史や「富山県の歴史」等の書籍には越中街道の珍しい石仏の一つとして紹介されておりますが、村外の方の認知度は低いのではないかと考えられますので、こういった情報の整理が重要と考えております。

次に、整理した情報、観光資源を有機的に結びつけて、自転車で約30分、徒歩でも約2時間で1周できる、舟橋村のコンパクトな地理的条件を生かした周遊ルートをつく

ることです。

ルート化に当たっては、サンフラワープロジェクトのヒマワリ畑や京坪川河川公園の桜並木など、季節ごとに見どころのある拠点を組み入れつつ、自然に村内全域を周遊できるようなコースが望ましいと考えております。

３点目としまして、周遊ルートをＰＲする資料やマップを作成し、ＳＮＳ等を活用した情報発信を強化することが重要と考えられます。

特に、村外の方に広くＰＲするためには、デジタル技術に精通した地域おこし協力隊員「にしけんさん」との連携、デジタルコミュニティ「舟橋村ＤＡＯ」の活用、昨年協定を締結したナウル共和国との広報連携など、様々な手段を組み合わせる必要があります。

今後、舟橋村の新しい取組であるサンフラワープロジェクトを持続可能な観光資源として発展させるとともに、議員からご指摘のあった自動運転バスの導入に向けた実証実験につきましては、単なる移動手段としてだけではなく、村外の人を呼び込むための手段としてバスを活用できないか精査してまいります。

以上です。

○議長（古川元規）　森　弘秋議員。

○５番（森　弘秋）　今ほど答弁をもらったんですが、１点、抜けたというか、考え方というか。

私は最後に、山﨑課長は村外から、村の行政に携わっておいでる。そういった観点から、外から見た、要するに、村外から見て、舟橋村をどう発展させるか。サンフラワープロジェクトも結構ですが、こんなもん、あるんやと。いや、おら、知らんかったと。ちょっと村を回ってきたら、こんなもんがあったと。ここ、どうだろうかといったものを少し観光スポットとして何か上げるものはないんだろうかなというふうに期待しておったんですが、いかんせん、どうなんですかね。そういう視点……。

総務課長は、あえて再質問を待っておられたかもしれません。そこら辺り、ちょっと課長の、村外の方の、外から見た舟橋村、観光はこうあるべきだといったものの論点が……。お願いします。

○議長（古川元規）　山﨑総務課長。

○総務課長（山﨑貴史）　森議員の再質問に対して答弁させていただきます。

村外の者から見た視点としましては、舟橋村には、なかなか知られていないけれども

皆さんの興味を引くような文化財等があると考えております。

ただ、そういったものを単独ではなくて、パッケージ化して、周遊コースとして構築することによって、より皆さんにＰＲすることができるのではないかと考えております。